



がん患者への栄養介入

～がん患者と栄養～

化学療法中は副作用のため食欲不振や嘔吐などの消化器症状により体重が減少し、栄養障害が引き起こされやすい状態です。体重減少した症例では化学療法の効果が低く、予後も悪いとされています。また、放射線治療を受ける患者にとっても、十分なエネルギーと蛋白質を摂取することが重要です。がんの治療を継続するためには、栄養状態の維持も重要な項目の一つです。

～がん患者へのNSTの関わり～

がん患者様の中には、食事が摂取できていない方や、長期間静脈栄養を実施している方など、栄養状態の維持・改善が必要な方が多くいます。また、がんの発生部位や治療によっては嚥下が困難になることも有ります。その為栄養補給方法や経腸栄養剤の種類の検討、悪心や嘔吐時の食欲不振に対する薬剤、経口摂取の維持を目的とした言語聴覚士介入の検討等が必要となり、栄養サポートチームと連携をとることが大切です。



～がん患者への食事・栄養相談～

当院では食事がとれない場合、患者様の嗜好に合わせて食べやすい食品を提供することができます。



食べやすい工夫の例

化学療法中は、甘いもの、さっぱりしたもの、酸味のあるものが食べやすいと言われる方が多いため、麺類やゼリー、フルーツ等を提供することが多いです。

- ・少量多品目の食事
- ・口当たりのよい食事
- ・濃い味付けの食事
- ・冷やした食事
- ・臭いに配慮した食事（肉・魚を豆腐や卵へ変更）
- ・ゼリータイプの栄養剤



また、診療報酬改定により、平成28年度よりがんの患者に対する栄養指導が保険点数の対象となりました。栄養指導が必要な患者様、食事調整が必要な患者様がいましたら、気軽に病棟担当管理栄養士までご連絡下さい。

管理栄養士 梅村 晴子

お知らせ

第2回 院内NST研修会

7月13日(水) 17:30～18:30 MGHホール



第17回 岐阜南NST研究会

8月25日(木) 18:30～20:00 MGHホール